

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	TAKUMI本八幡教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 17日		2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を通して、身体機能の向上、対人との関わり方、コミュニケーションなど、子供にとって大切なことを練習する機会を作っている。 苦手なことを頑張る力をつけて、出来たの成功体験から、自己肯定感をあげていく。	見通しをもって活動に参加できるように、事前事前の言葉かけを意識して、安心して、活動に取り組めるようにしている。 運動はツールとしての療育なので、体操教室のようにならないよう行っているが、出来ることはあげていきたいと思う。	子どもの様子を、職員間で共有し、一人ひとりの伸ばせるところを考えながら行い、変化を見落とさずに行っていく。
2	体を動かすことの楽しさを感じて、安心して動けるように環境設定を行っている。	視覚優位なお子様が多いので、見本を見せながら、伝え、安心して行えるようにしている。	1日、1日の振り返りをきちんと行い、次のクールにつなげていく。
3	年齢にあった内容を提供している	安全面には、気を付けておこない、年齢に応じた、環境設定を行っている。	子どもの成長を職員間で共有し、プログラム内容の見直しを行っている。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもにとっての配置の条件は、満たした配置を行っているが、子供の状況によっては、安全面を配慮すると、もう少し職員がいるといい時もある。	職員の子供を見る目をよりもっと養い、広げていきたい。	同じところを職員間で目指して、一人一人が向上するように向けていく。
2	療育の中で、同じように目指すように共有はされているが、職員間でのばらつきが見られる。	専門的な支援ができる、研修等が行える職員が少ない。	外部研修など、自分から向上する気持ちをもって行いたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 TAKUMI本八幡教室

公表日 2026年 2月 28日

利用児童数 : 26

回収数 : 20

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	1		1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19	1				
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17	3			不安な事など相談に乗ってくれて配慮してくれました。	保護者様の抱えている不安は出来るだけ解消できればと思っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19			1		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	1		1		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16	1		3		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	2		1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17	2		1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1	7	7		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	19			1		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	18	1		1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	6	4	4	6		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	16	1	2	1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1	1	3		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	2				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	6	3	9		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13	5		2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	18	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13	5		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15	1		4		契約の時に説明をきちんと行うようにします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	14			6		避難訓練のお知らせを行い、訓練も行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	18			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14	1		5		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	2				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	18	2			とても楽しみにしています。	ありがとうございます。引き続きお子様、保護者の方も楽しめるように行っていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	18	2			運動を楽しんでいるのでとても助かっています。 子どもを見るためのモニターにラグが起きやすく状況が分かりにくい時がある。	モニターのラグは状況を確認して見やすい環境を整えます。

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	TAKUMI本八幡教室			公表日	2026年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		子どもが怪我無く過ごせるように、一人一人の運動スペースを考えながら取り組んでいる。	隠れられる柱があるので、そこを気を付けて行っている。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	2	2	法律上の基準は満たしている。職員で協力し合って行っている。	配置数は満たしているが、つきっきりが必要な状況になったときもう少し人手がほしい。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		荷物を置く場所やスケジュール等、適切に掲示してあり、自立につながる。視覚的及び、導線も配慮した配置としている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日、清掃、消毒を行っている。細かなところまで、清掃している。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		クールダウンや気持ちの切り替えが必要な時、安全かつ、見守りが出来る場所を提供している。面談室を提供できる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		ミーティングにより活動がわかりやすい。	ミーティングの時間は設けているが、細かく話し合えない日もあるので、きちんと行えるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価をうけどう改善していくか話し合いを行っている。ミーティングで話し合いを行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		支援プログラムの内容に関して職員一人ひとりの気持ちや考えを伝えあいながら取り組んでいる。日々の振り返りを伝えあい、改善している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	2		第三者評価の実地が未実施なので、保護者からの評価を頂き、改善するべきものはきちんと行っていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修は定期的におこなっている。	研修内容を普段の運動等の内容を行ってほしい。研修では、サービスのメインである運動に対してのみで、子供との関わり方が少ないように感じる。
その他	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		会社のホームページに記載している。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		日々、子供の様子を保護者と共有し支援者の立場だけでなく、いろいろな見方で、支援方法を組み立てている。保護者の気持ちとお子様の気持ちを考えて作っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		計画を作成する際、職員間で子供の様子に対してミーティングを行っている。毎日のミーティングで行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		支援計画が更新されたら、共有あれ、確認が取れるようになっている。長期目標、その日の短期目標等、共有し支援している。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		支援記録への記入により、日々の変化や、対応方法等が確認できる。	

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		本児、保護者の希望を考えながら、タクミ外でもいろいろな事が出来るように考えての支援が出来るように考えています。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		提供していきたいメニューを個々に考えた上で実際にどう提供していくかチームで考え話合っている。 ミーティングをしっかりと行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		前回の活動を元に目標に向かって何をすべきかを毎回考え提供している。 指導員一人一人がいろいろな運動を考えて行っている。 どんな力をつけたいかを立案している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		一人一人の活動を見ながら、集団での動きも併せて行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		支援方法でのずれが起きないように目的を確認しながら行っている。 毎日、前打ち合わせを行い、その日の動きを共有している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		子どもに対しての気づきや、その日の支援方法、提供プログラムについての良かった点や、改善点を共有している。 その日の振り返りし、次はどのように行っていくかを共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		提供記録、個別記録を残し、検証、改善につなげている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		日々の動きを見ながら、6か月以内に、支援計画の見直しの為、保護者との面談を行い計画を立てている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		保護者から話を聞きながら、サービス担当者会議や、保育園、幼稚園等に訪問し、先生方と話を行っている。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		協力医療機関、市役所等と支援を行う体制を整えて行っている。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		児発管が、他事業所や、保育園等に訪問し、情報交換、支援内容を共有するなど、相互理解を図っている。 保育園に訪問し、過ごし方を見せていただき、タクミで行っている支援内容を共有し、子供が常に同一の支援を受けやすいように工夫している。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		未就学児の教室なので、小学校との関わりは今はありません。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。			
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4			
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4			

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	4	見学もできるため、常に子供の様子は共有しあえている。支援方法についても、見てもらえているので、やり方や、子供への対応も理解していただきやすい。 日々様子を伝えて頂き、できるだけコミュニケーションを図るように努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	イベント等を企画し、一緒に子供の課題に対して共有し対応を検討している。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	体験や、契約の際、フィードバックの際、常に説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	見学を行っている保護者が多いので、普段から子供の様子を共有しあいたい家族に意思を確認できている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	支援計画の説明を行い、保護者に同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	家庭での困り事があると感じた際、面談の機会を提案したり、フィードバック時に対応についてのお話をしている。 児発管が細かく適切に対応している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	見学スペースや、イベントの際、保護者同士の交流が見られている。	保護者会などは、行っていないので、参加型などで、行うことが出来たらと思い検討している。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	保護者やこどもの相談事に対し面談の機会を提案し、申し入れがあった場合は、迅速に対応している。	こちらから行動を起こさないと話が聞けない方もいらっしゃるのでは、進んで声を掛けていこうと思う。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	事前のお知らせ、声掛け等参加しやすいようにしている。 HPやSNSを通してイベントやプログラムの発信を行っている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4	提供記録や、指導案を記入する際には、伏字にしたり、取り扱いに気を付けている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	言葉を選び、より分かりやすく伝えるように工夫している。 気持ちの表現方法を伝えたり、絵カードを使用して意思の疎通を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	支援プログラムの中に訓練を取り入れ、絵カードなどで子供に分かりやすく説明している。 保護者には、訓練するお知らせを事前に周知して行っている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	きちんとマニュアル化し、毎年行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	体験前の聞き取りや、契約時、保護者面談で、フェイスシートを通して聞き取りを行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	基本的に、食べ物の提供などはないが、イベントでお菓子を配る場合は、保護者にきちんとチェックしてもらい、アレルギー児には、それにあつたものを渡している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	チェックシートの記入を行い、道具の安全確認等は毎日行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	契約時に説明を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	毎年行っている。	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	毎年行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	契約時に身体拘束同意書を記入していただき、説明を行っている。	